



前提条件とガイドライン

- 概要 (1 ページ)
- 前提条件 (1 ページ)
- アップグレードのガイドライン (2 ページ)
- HyperFlex ソフトウェアのバージョン (6 ページ)
- サポートされているアップグレードパス (7 ページ)
- 3.5(1x) 以前のリリースからのアップグレード (13 ページ)
- SED 対応システムのアップグレード (14 ページ)
- 注意事項と推奨事項 (15 ページ)

概要

Cisco HyperFlex システムで Cisco HX Data Platform および Cisco UCS サーバファームウェアをアップグレードする前に、この章で説明するガイドライン、ベストプラクティス、および推奨事項を考慮してください。

前提条件

1. このリリースにアップグレードして新機能を確認する前に、解決済みの問題と未解決の問題を参照してください。最新の「[Cisco HX Data Platform Release Notes](#)」を参照してください。
2. サポートされているバージョンとシステム要件を確認してください。詳細については、「[Hardware and Software Interoperability for Cisco HyperFlex HX-Series](#)」を参照してください。

**重要**

- 最新のソフトウェア バンドルバージョンであることを確認し、ソフトウェア バージョンを確認してください。最新の「[Cisco HX Data Platform Release Notes](#)」を参照してください。
- すべてのサーバのオペレーティング システムのドライバ レベルが、アップグレード予定の Cisco UCS のリリースに対して正しいレベルになっていることを確認します。サーバハードウェアの識別については、『[Cisco UCS Driver Installation Guide](#)』を参照してください。

3. 設定を **All Configuration** バックアップファイルにバックアップします。詳細な手順については、『[Cisco UCS Manager Backing Up and Restoring the Configuration Guide](#)』を参照してください。
4. ファームウェアのアップデートを実行する前に、Cisco UCS Manager ファームウェア管理インターフェイスを使用して、ファブリック インターコネクタに関連するイメージをダウンロードします。イメージはファブリック インターコネクタのブートフラッシュのパーティションに保存されます。詳細については、[ソフトウェアのダウンロード](#)を参照してください。
5. Cisco HyperFlex HX Data Platform の新しいバージョンにアップグレードすると、ESXi のアップグレードが必要な可能性があります。[HyperFlex ソフトウェアのバージョン \(6 ページ\)](#) の各 HX Data Platform バージョンについては、サポートされているバージョンを参照してください。
6. SSH をすべての ESXi ホストで有効なままにしておきます。
7. vMotion vmkernel アダプタでは、デフォルトの TCP/IP スタックのみサポートされています。
8. アップグレード中に VM が自動的に移行され、環境の要件に応じて MTU が設定されるよう、vMotion を有効にします。VM カーネル インターフェイスの追加について、詳しくは [vMotion インターフェイスの設定](#) を参照してください。
9. HyperFlex クラスタが正常であることを確認します。詳細については、[HyperFlex ノードのアップグレードの検証](#)を参照してください。
10. クラスタが寛容 (lenient) モードであることを確認します。クラスタが寛容 (lenient) モードでない場合は、寛容 (lenient) モードに設定します。[寛容モードの設定](#)を参照してください。

アップグレードのガイドライン

次のリストは、HyperFlex システムのアップグレードを実行する際の重要な基準を記載します。

- **サポートされていない HX Data Platform 1.7.x、1.8.x、2.0、2.1x、2.5x、2.6x クラスタ**
—2.6(1a) 以前のバージョンからのユーザーは、4.0 またはそれ以降のリリースにアップグレードする前に、中間バージョンを通過する必要があります。サポートを終了した Cisco HyperFlex HX Data Platform ソフトウェア リリースから、Cisco ソフトウェア ダウンロード サイトの最新の提案されたリリースにアップグレードする必要がある場合、『[サポートされていない Cisco HX リリースの Cisco HyperFlex システム アップグレード ガイド](#)』を参照してください。詳細については、『[Software Advisory for CSCvq66867 のソフトウェア アドバイザリ: 警告: HXDP 1.8\(1a\)-1.8\(1e\) からアップグレードする場合は HXDP 2.6\(1e\) アップグレード パッケージのみ使用する](#)』を参照してください。
- **Hypercheck ヘルス チェック ユーティリティ:** アップグレードする前に、Hypercheck クラスタでこの予防的ヘルス チェック ユーティリティを実行することを推奨します。これらのチェックにより、注意が必要なエリアがすぐに見やすくなり、シームレスなアップグレード エクスペリエンスを保証します。Hypercheck のインストールと実行方法の完全な手順の詳細については、『[Hyperflex 健全性および事前アップグレード チェック ツール](#)』を参照してください。
- **vSphere 6.7 ソフトウェア アドバイザリ:** ESXi 6.7U1 EP06 (build # 11675023) を実行している場合は、Cisco HX Data Platform リリース 4.0 (1a) にアップグレードしないでください。Cisco HX Data Platform リリース 4.0 (1a) を実行している場合は、6.7U1 EP06 (build #11675023) にアップグレードしないでください。詳細については、『[ソフトウェア アドバイザリ CSCvo56350](#)』を参照してください。



(注) リリースに掲載されているソフトウェア ビルドバージョンは、他のすべてのローカルバージョンよりも優先されます。

- **必要な vCenter のアップグレード:** セキュリティを強化するために、Cisco HX Data Platform リリース 3.5(1a) 以降では TLS 1.2 を使用する必要があります。そのため、Cisco HX Data Platform リリース 3.5 にアップグレードする前に、vCenter を 6.0 U3f 以降にアップグレードする必要があります。さらに、HX Data Platform の互換性要件を満たすために、ESXi を必要に応じてアップグレードする必要があります。
- **アップグレード対象の最小 HXDP バージョン:** 2.6(1f) 以降を実行中の HX Data Platform クラスタは、HX Connect UI を使用して 4.0 に直接アップグレードできます。
- **クラスタの対応状況:** アップグレードを進める前に、クラスタが適切にブートストラップされて、更新済みプラグインがロードされていることを確認します。3.5 より前のリリースからのアップグレードには、手動のクラスタ ブートストラップが必要です。
- **クラスタの準備状況:** 3.5 (1a) より前の Cisco HX Data Platform リリースからのすべてのアップグレードについては、『[Cisco Hyperflex システム アップグレード ガイド](#)』の手順に従って、クラスタが適切にブートストラップされていることを確認してください。リリース 3.5 (1a) までのすべてのアップグレードに必要なため、このクラスタ ブートストラップ手順をスキップしないでください。3.5 (1a) 以降からのアップグレードは、HX Connect UI を使用して自動的にブートストラップされます。詳細については、『[Cisco HyperFlex Systems Upgrade Guide](#)』を参照してください。

- **アップグレードの開始:** 2.5(1a)以降のリリースからアップグレードする場合は、HX Connect UI または CLI の `stcli` コマンドを使用してください。2.5(1a)より前のリリースからアップグレードする場合は、CLI `stcli` コマンドまたはvSphere Web ClientのHX Data Platform Plug-inを使用します。vCenter プラグインは、2.5(1a) リリース以降のアップグレードには使用しないでください。vCenter プラグインは、2.5(1a) リリース以降のアップグレードには使用しないでください。



(注) 現在のクラスタのバージョンが3.5(1a)以降である場合は、`stcli` コマンドを使用する必要はありません。4.0への直接アップグレードが可能です。

- **アップグレードの完了—**アップグレードウィンドウでは、一時的に自己修復(または再調整)が無効になっています。アップグレードが失敗する場合、できるだけ早くアップグレードを完了する必要があります。
- **ESXi および HXDP の互換性:** クラスタが HX Data Platform バージョンの実行に基づいて ESXi の互換性のあるバージョンを実行していることを確認します(「VMware ESXi のソフトウェア要件」の項を参照してください)。ESXi の互換性は、ESXi のメジャーバージョンおよび更新リリースによって決定されます。通常、アップグレード操作を一度の最適化されたリブートと組み合わせる場合、HXDP と ESXi を一緒にアップグレードすることをお勧めします。分割アップグレードを実行する場合は、最初に HX Data Platform をアップグレードしてから、ESXi のアップグレードに進みます。
- **vSphere 6.5 にアップグレードする場合 :**



(注)

- 特定のクラスタ機能(ネイティブ/スケジュール スナップショット、ReadyClones、HX メンテナンス モードの開始/終了など)は、アップグレードの開始時から 2.5 以降への HX Data Platform のアップグレードが完了するまで動作しません。
- オフライン zip バンドルを使用して ESXi をアップグレードした後、ESX の [Exit Maintenance Mode] オプションを使用します。HX Data Platform のアップグレードが完了するまでは、vSphere Web クライアント内で ESX の [メンテナンス モードの終了 (Exit Maintenance Mode)] オプションは動作しません。

- **vSphere 6.0 のアップグレード :** vSphere 6.0 を 6.5 に移行する場合は、次の順序でコンポーネントをアップグレードします。
 1. HX Data Platform と UCS ファームウェアをアップグレードします。
 2. HX Data Platform と ESXi をアップグレード。

3. HX Data Platform のみを最初にアップグレードし、次に ESXi および/または UCS ファームウェアをアップグレードするか、両方アップグレードします。
- **M4 サーバ ファームウェア アップグレード:**円滑な動作を確実にして、既知の問題を修正するには、サーバファームウェアをアップグレードします。特に、長期間にわたる安定性を確保するために、このリリースで使用可能になった新しい SAS HBA ファームウェアを推奨します。



- (注)
- 可能な場合は常に、3.1(3c)以降の C バンドルにアップグレードするようにしてください。
 - 3.1(2f) より前のバージョンの C バンドルを使用している場合は、UCS サーバファームウェア (C バンドル) のコンバインドアップグレードを行って、サーバファームウェアを 3.1(3c) 以降に、HX Data Platform を 2.5 にアップグレードする必要があります。これらのアップグレードを 2 つの別々の操作に分割しないでください。
 - クラスタがすでに 3.1(2f) 以降の C バンドルで稼働している場合、必要に応じて HX Data Platform のみのアップグレードまたはコンバインドアップグレードを実行できます。

- **M5サーバファームウェアのアップグレード:** M5 世代のサーバでは、ファームウェアバージョン 3.2(2d) 以降を実行する必要があります。
- **ファームウェア ダウングレード** — HX-installer から UCSM のダウングレードはサポートされていません。
- **M4/M5 の混在ドメイン:** 既存の M4 クラスタが含まれる UCS ドメインに新しい別個の M5 クラスタをインストールすると、同じドメインに M4 と M5 が混在することになります。このような場合、オーケストレーションされた UCS サーバファームウェアのアップグレードは、M4 クラスタに Cisco HX Data Platform リリース 2.6 以降がインストールされるまで動作しません。したがって、最初に UCS サーバファームウェアを最新の 3.1(3) または 3.2(2) パッチリリースにアップグレードしてから、既存の UCS ドメインに新しい M5 クラスタを追加することがベストプラクティスです。さらに、新しい M5 クラスタを 1.7 HX Data Platform クラスタと同じドメインに追加する場合は常に、1.7 HX Data Platform クラスタを最初にアップグレードする必要があります。
- **メンテナンス時間枠:** HX Data Platform と UCS ファームウェアの両方をアップグレードする場合、メンテナンス時間枠の大きさに応じて、vSphere HX Data Platform Plug-in を介したコンバインドアップグレードまたは分割アップグレードのいずれかを選択できます。Cisco UCS Manager インフラストラクチャアップグレードでは、AutoInstall の使用のみをサポートしており、直接のサーバファームウェアアップグレードは、HX Data Platform Plug-in から提供されているアップグレードオーケストレーションフレームワークでのみ実行する必要があります。

- **サポートされていない自己暗号化ドライブ (SEDs):** 新しいバージョンの HX Data Platform (ミクロン5200 など) で最近認定された自己暗号化ドライブ (SEDs) を追加または交換する場合は、HX Data Platform にアップグレードした後にのみ、新しいドライブを互換性のあるバージョンに挿入してくださいすべてのドライブは SED ドライブである必要があります、SED と非 SED の混在はサポートされていません。
- **管理者ユーザー アカウント:** Cisco HX Data Platform リリース 1.7 で最初に展開されたクラスタからアップグレードする場合、または展開後にパスワードを手動で変更した場合は、クラスタ管理者パスワードをリセットする必要があります。詳細については、『[Cisco HyperFlex Systems Upgrade Guide](#)』を参照してください。
- **外部ホスト アクセスの有効化:** Cisco HX Data Platform リリース 4.0 (1a) を使用すると、管理ネットワーク上のポート 445 はセキュリティ強化のためにブロックされます。4.0 より前のポートでは、外部ホストアクセスを有効にするポート 445 ポートが開いていることに注意してください。以前のリリースから 4.0 (1a) にアップグレードしていて、外部ホストアクセスを続行する場合は、ユーティリティを使用して [select hosts (ホストの選択)] を開くことができます。外部ホストアクセスの有効化の詳細については、『[Microsoft hyper-v のインストールガイド](#)』の「SCVMM への Hyperflex 共有の設定」の項を参照してください。

HyperFlex ソフトウェアのバージョン

Cisco HX Data Platform インストーラ、Cisco HX Data Platform、および Cisco UCS ファームウェアといった HX のコンポーネントは、さまざまなサーバにインストールされます。HX Storage Cluster とともに（またはその内部で）使用される各サーバの各コンポーネントに互換性があることを確認します。

- **HyperFlex は、UCS Manager および UCS Server Firmware バージョン 4.0(4a)、4.0(4b)、4.0(4c) をサポートしていません。**



重要 これらのファームウェアバージョンにアップグレードしないでください。

これらの UCS Manager のバージョンにアップグレードしないでください。

- 事前設定された HX サーバと、インストールされている Cisco UCS サーバファームウェアのバージョンが同じであることを確認します。Cisco UCS ファブリック インターコネクタ (FI) のファームウェアバージョンが異なる場合は、ファームウェアのバージョンを調整する手順について、『[Cisco HyperFlex Systems Upgrade Guide](#)』を参照してください。
 - **M4:** 新しいハイブリッドまたはオール フラッシュ (Cisco HyperFlex HX240c M4 または HX220c M4) の導入の場合は、Cisco UCS Manager 3.1(3k)、3.2(3i)、または 4.0(2b) 以降がインストールされていることを確認してください。詳細については、『[推奨される Cisco HyperFlex HX Data Platform ソフトウェア リリース](#)』を参照してください。

- **M5:** 新しいハイブリッドまたはすべてのフラッシュ（Cisco HyperFlex HX240c M5 または HX220c M5）を展開する場合は、推奨される UCS ファームウェアバージョンがインストールされていることを確認してください。



重要 SED ベース HyperFlex システムについては、A（インフラストラクチャ）、B（ブレードサーバ）および C（ラックサーバ）バンドルが、すべての SED M4/M5 システムに対して Cisco UCS Manager バージョン 4.0(2b) 以降です。詳細については、[CSCvh04307](#) を参照してください。

SED ベース HyperFlex システムでは、すべてのクラスタが HyperFlex リリース 3.5(2b) 以降であることも確認します。詳細については、[Field Notice \(70234\)](#) および [CSCvk17250](#) を参照してください。

- HX サーバを再インストールするには、サポートされている互換性のあるソフトウェアのバージョンをダウンロードします。要件と手順については『[VMware ESXi 向け Cisco HyperFlex システム インストール ガイド](#)』を参照してください。



重要 4.0(1a) CIMC 以前のバージョンを実行している Intersight エッジサーバについては、HUUにはファームウェアを更新するためのメカニズムが提案されます。

- 推奨される FI/サーバ ファームウェアに関連する [リリース ノート](#)を確認してください。

表 1: M4/M5サーバ (SED 以外)の HyperFlex のソフトウェアバージョン

| HyperFlex リリース | M4 推奨 FI/サーバファームウェア * (上記の重要な注意事項を必ず確認してください) | M5 推奨 FI/サーバファームウェア * (上記の重要な注意事項を必ず確認してください) |
|----------------|--|--|
| 4.0(2a) | 4.0 (4g) | 4.0 (4g) |
| 4.0(1b) | 4.0 (4e) | 4.0 (4e) |
| 4.0(1a) | 4.0 (4e) | 4.0 (4e) |

サポートされているアップグレードパス

以前の Cisco HyperFlex リリースからアップグレードする場合は、次のガイドラインに従ってください。

- リリース 1.8 (1e) 以前のお客様の場合は、最初のホップとしてリリース 2.6 (1e) にアップグレードし、次にリリース 3.5 (2x) またはリリース 4.0 (1x) などの最新のサポート リリースにアップグレードしてください。
- リリース 1.8(1f) ~ 2.0(1x) 間のお客様の場合は、最初のホップとしてリリース 3.0 (1i) にアップグレードし、次にリリース 3.5 (2x) またはリリース 4.0 (1x) などの最新のサポート リリースにアップグレードしてください。
- リリース 2.1 (1a) 以降のお客様の場合は、サポートされている最新リリース 3.5 (x) に直接アップグレードしてください。

Cisco UCS Manager アップグレードの推奨事項

Cisco Hyperflex は、UCSM のアップグレードパスには適用されず、依存関係もありません。Cisco UCS Manager のアップグレードに関する詳細については、『[Cisco UCS インストールおよびアップグレードガイド](#)』を参照してください。

VMware ESXi アップグレードの推奨事項

Cisco Hyperflex は、VMware アップグレードのガイドラインの外部にある VMware ESXi アップグレードパスには適用されず、依存関係もありません。推奨される VMware ESXi ダウンロードは、Cisco HyperFlex ソフトウェアのダウンロードを含む [\[Cisco Software Downloads \(Cisco ソフトウェア ダウンロード\)\]](#) ページにあります。

- ESXi 5.5 のサポートは HXDP 2.5 で廃止されました。
 - HX220 で ESXi 5.5 U3 を実行している場合のアップグレードのガイダンスについては、TAC にお問い合わせください。
 - HX240 で ESXi 5.5 U3 を実行している場合、詳細については、[アップグレードのガイドライン \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- ESXi 6.0 U1 バージョンの場合、ESXi のアップグレードを推奨します。PSOD や OS のクラッシュのためにノードが応答しなくなるという既知の VMware の問題があります。VMware ナレッジベースの記事、『[VMware ESXi 6.0, Patch ESXi600-201608401-BG: Updates esx-base, vsanhealth, vsan VIBs \(2145664\)](#)』を参照してください。
- ストレージクラスタ仮想マシン (SCVM) の VM 互換性バージョンまたはハードウェアバージョンのアップグレードはサポートされていないため、実行しないでください。このアクションは SCVM に悪影響を及ぼすため、実行する場合は SCVM の再構築が必要になります。



注目 TLS 1.2 をサポートするには vCenter 6.0 U3f 以降へのアップグレードが必要です。HX クラスタをアップグレードする前に、必ず vCenter をアップグレードしてください。

Cisco UCS Manager でサポートされる Cisco HX Data Platform のバージョン

| Cisco UCS Manager のバージョン | Cisco HX Data Platform | | | | | | | | |
|--------------------------|---|---|---|---|---------|---------|---------|---------|-------|
| | 4.0 (1x) | 3.5 (1x) | 3.0(1x) | 2.6(1x) | 2.5(1x) | 2.1(1x) | 2.0(1x) | 1.8(1x) | 1.7.x |
| 3.2(3g) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | — | — | — | — | — |
| 3.2(3g) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4 サーバ、および M5 サーバをサポート | — | — | — | — | — |

| Cisco UCS Manager のバージョン | Cisco HX Data Platform | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|--|--|--|--|--------------------------------------|--------------------------------------|-----|---|
| | 3.2(3d) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | — | — | — | — |
| 3.2(2d) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、およびM4サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、およびM4サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、およびM4サーバをサポート | Yes | — |

| Cisco UCS Manager のバージョン | Cisco HX Data Platform | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--|--------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|---|
| 3.1(3j) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、およびM4サーバをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes | — |
| 3.1(3h) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、およびM4サーバをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes | — |

| Cisco UCS Manager のバージョン | Cisco HX Data Platform | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|--|--|--------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|
| | 3.1(3f) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、およびM4サーバをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes |
| 3.1(3c) | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、M4サーバ、およびM5サーバをサポート | Yes ハイブリッド、オールフラッシュ、およびM4サーバをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes | — |
| 3.1(2g) | — | — | — | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes | — |

| Cisco UCS Manager のバージョン | Cisco HX Data Platform | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------------|---|---|---|---|---|--------------------|-----------------------------|-----|
| | 3.1(2f) | — | — | — | — | — | — | Yes ハイブリッドとオールフラッシュをサポート | Yes |
| 3.1(2b) | — | — | — | — | — | — | Yes ハイブリッドをサポート | Yes | — |

3.5(1x) 以前のリリースからのアップグレード

2.1(1c)以前のHX Data Platformを実行しているクラスタは、最初に中間リリースにアップグレードする必要があります。3.5(1x)に、既存のHyperFlexクラスタをアップグレードする次の表を参照してください。

| 旧バージョン | 1.7(1x) | 1.8(1x) | 2.0(1x) | 2.1(1c) | 2.5(1x) およびそれ以上 |
|------------|--|---|---|--|---|
| 3.5 (1x) へ | <ol style="list-style-type: none"> 2.1 (1c) へのアップグレード VCenter プラグインを使用し、3.5(1x) にアップグレードします。 | <ol style="list-style-type: none"> Cisco では 2.5(1x) へのアップグレードを推奨します。2.1(1c)、2.5(1x)、または 2.6(1x) のいずれかにアップグレードできます。 HX Connect を使用して、3.5(x) へアップグレードします。 | <ol style="list-style-type: none"> Cisco では 2.6(1x) へのアップグレードを推奨します。2.5(1x)、2.6(1x)、または 3.0(1x) のいずれかにアップグレードできます。 HX Connect を使用して、3.5(x) へアップグレードします。 | VCenter プラグインを使用し、3.5(1x) に直接アップグレードします。 | HX Connect を使用して 3.5(1x) に直接アップグレードします。 |

SED 対応システムのアップグレード

SED 対応システムとは、自己暗号化ドライブ (SED) がインストールされた、HXDP2.1(1b) を実行している HyperFlex クラスタを指します。この場合、UCS Manager を 3.1(3c) 以降にアップグレードする必要があります。さらに、UCS サーバファームウェア (C バンドル) を 3.1(3c) 以降にアップグレードする必要があります。HX Connect でキー管理を有効にする前にすべてのクラスタ ノードがアップグレードされている限り、コンバインドアップグレードまたは分割アップグレードのどちらでも使用できます。



注意 アップグレード中に、フラグベースのチェック (True または False) がシステムが SED 対応かどうかを判断するために使用されます。システムが SED 対応である場合、このフラグ (true に設定) は非 SED システムがクラスタの一部になることが許可されません。クラスタの SED 機能情報を収集されたときに問題がある場合、アップグレードのスクリプトはデフォルト値 (False) に、このフラグを切り替える可能性があります。その場合、ノード上のすべての SED ドライブが非 SED ディスクと置き換えられ、アップグレードは同様に、非 SED ディスクで実行されます。最終的、非暗号化形式で、そのノード上のデータを書き込んでしまうリスクがあります。

注意事項と推奨事項

Cisco HyperFlex System のアップグレードを開始する前に、次の注意事項、ガイドライン、および制限事項を考慮してください。



重要

- HX220 上の VMware ESXi をバージョン 5.5 U3 からアップグレードする必要がある場合は、Cisco TAC までお問い合わせください。
- HX240 の場合、[アップグレードのガイドライン \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- HyperFlex リリース 3.5 (1a) 以降を実行している場合は、HX Connect UI から自動ブートストラッププロセスを実行して Cisco HX データプラットフォームをアップグレードできます。(HX Connect UI からの自動ブートストラップアップグレードプロセス)。
- CLI を使用して GUI をアップグレードすると、使いやすくなり、レポート作成機能が改善されます。
- アップグレードが完了したら、使用するブラウザインターフェイスごとに、キャッシュを空にしてブラウザにページをリロードし、HX のコンテンツを更新してください。
- アップグレードやその他のメンテナンス作業を行う前に、(コンピューティングノードを含む) すべてのノードが稼働中であり、クラスタが正常な状態であることを確認してください。
- Cisco HX Data Platform と Cisco UCS ファームウェア バンドルには互換性が必要です。詳細については、『[UCS Hardware and Software Compatibility Matrix](#)』を参照してください。
- 分割アップグレードを行う場合、最初に Cisco HX Data Platform を更新してから、Cisco UCS ファームウェアを更新する必要があります。
- オンラインアップグレード中に、1 つのノードがアップグレードされる (メンテナンスモードになる) と、[データ リプリケーション ファクタ](#) と [アクセス ポリシー](#) の設定に基づいて、許容されるノード障害の数が削減されます。

- vMotion vmkernel アダプタでは、デフォルトの TCP/IP スタックのみサポートされています。
- Cisco HyperFlex ドメインのすべてのエンドポイントが完全に機能しており、それらのエンドポイントのファームウェアのアップグレードを開始する前に、すべてのプロセスが完了している必要があります。たとえば、検出されていないサーバのファームウェアはアップグレードまたはダウングレードできません。各エンドポイントは、Cisco HyperFlex ドメイン内のコンポーネントであり、機能する上でファームウェアが必要です。
- 3 ノードクラスタでは、1 つのノードをシャットダウンするかメンテナンスモードにすると、クラスタは正常な状態ではなくなりますが、引き続きオンラインの状態に保たれます。手動でメンテナンスを行う必要がある場合、ホストを一度に 1 つずつメンテナンスモードにします。次のホストでの作業に移るのは、クラスタが正常な状態になってからにしてください。HXDP および UCS サーバファームウェアでは、このプロセスは自動的に行われます。



(注) **stcli** ノードの削除操作によって、3 ノードクラスタからノードを削除することはできません。3 ノードクラスタ上のノードを置換するには、Cisco TAC にノードの置換手順について問い合わせてください。
